

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	岐阜県羽島市正木町新井4-945		
自己評価作成日	令和7年10月13日	評価結果市町村受理日	令和7年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2170400465-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所目標として「その人らしさを大切に」を掲げ、その人らしさを理解し、尊厳の保持、安心安全なケアに努めQOLの向上につなげて行き、利用者様一人一人が生き生きと生活できるよう、毎日の取り組みも大切にしています。また、センター方式、ICFを取り入れ始めました。その人らしさを最大限に生かしていけるよう、生活のご支援につなげていきたいです。個別のご支援は行き届いてはいないものの、担当者が主体となり行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、県内で4つのグループホームを運営しており、その内、3事業所が同市内にあり、事業所間での協力体制がある。法人理念や指針と共に、運営マニュアルの共有や法人全体での運営推進会議、共同研修の開催等で、ケアの統一と質の向上を図り、利用者が安心してその人らしい生活が出来るよう支援に取り組んでいる。代表・管理者を始め、職員も日々努力し、利用者が持てる力を活かしながら穏やかにホームでの共同生活を送れるようサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼や夕礼時に皆で復唱しています。また、ミーティング等でも話し合い、意識の向上と実践に生かせるようにしています。	理念を事業所の共有スペースに掲示し、毎日、皆で読み上げ、確認と意識化を図っている。常に代表が中心となって取り組み、全職員が理念に沿った支援を行うよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	皆で作った干し柿をお裾分けしたり、お話ししたりと少しではあるが、ご近所の方との交流は保っている。また、お祭り時には子供神輿も来て下さるので一緒に写真を撮ったりと関わりが出来る。	自治会に加入しており、地域活動や情報を得ることが出来る。地域活動は少ないが、近隣住民との交流は続いている。事業所活動への理解と地域住民との関係構築に向けて、「老人会」の人をランチに招待する等の計画がある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に参加していただけることが増え、ホームの様子や意見を頂いている。近所の方にも書面にてお声掛けさせていただいている。民生委員の方も毎度参加いただき色々な意見交流が出来ています。	家族が参加しやすい土曜日に開催している。市担当者は、Zoom参加の場合もある。市会議員や民生委員の参加も得ている。会議で家族から食事内容についての質問があり、便りと一緒に献立表を送付し、喜ばれている。	運営推進会議で話し合いながら、地域密着型利用者サービス事業所として、自治会や地域住民との新たな関係作り等、活動の工夫に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あまり関わる機会は少ないですが、何かあればすぐに連絡し相談したりと連携がとれるようにしています。介護相談員の方には毎月施設に来ていただき交流している。	介護保険や生活保護に関する担当課とは、常に連携を図っている。行政主催の研修会には積極的に参加し、情報共有を図っている。毎月、市の介護相談員の受け入れを行い、情報共有しながらサービスに活かしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はありませんが、出て行かれる可能性が高い利用者様もおられるため、常に玄関の施錠をしています。少しずつ減らしていきたい。また、身体拘束研修も行っています。	法人全体で身体拘束委員会を開催、各事業所に持ち帰り、職員に内容を周知している。現在、帰宅願望の強い利用者については、玄関の施錠や関わり方について、家族で話し合いながら、対応している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を受け、ミーティングにて共有し話し合いをしています。常に意識しながら日々のケアに取り組んでいます。	今年度は、地域包括支援センターによる高齢者虐待防止研修を受け、日々のケアについて見直しを図っている。組織の中で、虐待を見逃さない体制づくりを徹底し、法人の介護力向上委員会や接遇委員会等で学びを重ねている。	

岐阜県 グループホーム夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等で関することを話し合い理解につなげていけるよう学んでいる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にはホームへ見学に来ていただき、説明やご家族様の不安や疑問にお答えし理解していただけるよう努めている。契約の際は施設長が十分な説明をしており、改善の場合は文書にてお知らせしている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時や電話をするときには意見や要望を聞いている。また、アンケートを送らせて頂いたり、年に一度、担当者会議を実施しています。	「正木たより」や利用者毎の「生活便り」を送付し、家族の意見を聞くようにしている。家族アンケートも実施し、結果を共有しながらケアに活かしている。年に1度、家族、法人代表、ケアマネジャー、担当者で面談する機会を設けている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は個人面談を通し、職員の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。また業務改善箱を設置しています。	代表が現場に入ることもあり、職員との個人面談や意見交換を行っている。また、日頃から管理者やケアマネジャー、職員等は、現場での気づきについて、いつでも話し合える良好な関係である。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は主任会議、個人面談、筆記テスト、自己評価などで個々の努力や実績を把握している。また、ワークバランスを考え、休みやすい体制、有給取得率の向上に努めている。	法人の方針で職員個々の目標管理や知識・技術の確認を行い、ケアの質の維持向上を図っている。管理者は、職員の希望シフトや勤務時間、有休暇取得率の向上等にも配慮し、モチベーションアップに繋げている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表はキャリアパス勉強会、筆記テスト、自己評価、他者評価などで個々の力量を把握している。委員会ごとでもテーマに沿った勉強会を行い、それを各事業所に持ち帰り、勉強の機会としている。	年間研修計画に沿って、テーマや日程を各委員会が企画し実施しているが、年間計画として職員への公表はしていない。目標管理として評価基準を定め、自己評価・他者評価(管理者)を行い、面談を行いながら相互理解に努め、次のステップを目指している。	職員が法人の年間研修計画を把握した上で、それぞれが自分の目標を定められるよう、年間研修計画を職員に公表し、サポートしながら取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表は研修などを通じて同業者と交流する機会を作り、参考になることをミーティングや委員会活動を通じてサービス向上につなげています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の能力の範囲内で行えることをやっけていただいている。利用者様はご自分の仕事として積極的に活動していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や行動等で思いを把握することに努めている。また担当制を設け、ご本人の意向の把握に努めている。	利用者の生活歴や自宅での生活の様子、利用者の好む活動や考えなど、出来るだけ多くの情報を家族から得るようにしている。利用者が思いを言葉に出来ない場合、アセスメント情報から推測し、ケアに活かしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われるミーティングにてケースカンファレンスで評価したり、担当者会議を開催し要望等を伺い、介護計画に生かしている。	毎月のミーティングの際に、ケースカンファレンスの時間を設けて話し合っている。家族を交えた担当者会議でも意見を聞き、話し合いながら、ケアマネジャーが介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、朝礼や夕礼の申し送りを活用し状態の把握に努め、ミーティングにて話し合い、実践や介護計画に見直しに生かしています。	日々の申し送りノートに加え、令和7年3月にタブレット端末での記録方式を導入している。PC内の介護記録と共に、必要な個別記録を取り出し、ミーティングで話し合いながら介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに応じて、ご家族の協力を仰ぐなど、そのときのサービスにつなげている。	利用者が不穏な時には、家族の協力を仰ぎ、寄り添ってもらうこともある。家族の了承を得て買い物代行を行ったり、本人の希望を聞きながら、個別の買い物に付き添い、気分転換できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の思いに応じて、近所への散歩や、お墓参り、買い物、木曾三川公園等へ出かけています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診あり。入所前からのかかりつけ医を希望の方は継続していただいています。	協力医の往診の際には、主に管理者が付き添い、口頭で利用者情報を伝えている。協力医からの報告書の内容を管理者が申し送りノートに記載し、職員への周知や訪問看護師(月2回)との連携に活かしている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要となった場合は入院先へ情報提供を行い連携に努めている。また退院時には病院に出向き、カンファレンスに参加しています。	入院時は、ケアマネジャーが情報提供書を作成、医療機関に提供している。病院の地域連携室と情報交換しながら、早期の退院に向けて、利用者の受け入れ態勢を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の診断のもと、ご家族と訪問看護とともに話し合いの場を持ち、方針の確認を行っている。また、エンディングノートの記入もいただいている。	入居後に、エンディングノートの記入を依頼している。重度化した場合は、訪問看護師と共に対応している。本人・家族の了承を得て、内容を確認し話し合いながら、終末期における本人・家族の望む支援の実施につないでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、急変や事故発生時に対応できるようにしています。今後順に研修へも参加していきたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に、年に二回避難訓練を実施しています。(水防法を含む)避難場所としてアパートを二部屋借りています。また、防災食作り体験も行っています。	事業所横の西側道路沿いに用水路がある。事業所は平屋造りのため、水害時の避難場所として、法人がアパートを借り、寝具や衛生用品などを用意している。近隣の同一法人事業所との協力体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に三大介助時には、一人一人の個性やこだわりに合わせて、声掛けや対応を職員間で共有し行っている。個人の存在や価値を尊重し自己決定やその人らしさを大切にしています。	ケア現場で、利用者の状態や他の利用者に関する話をする時は、名前を出さないよう意識し、個人情報やプライバシーを侵すことのないよう努めている。また、排泄や入浴介助の際は、特に、羞恥心に配慮し支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望に添えることができるよう対応させていたっている。利用者様の思いを傾聴するよう、ゆったりとした時間を設けるよう心掛けている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に配慮し一人一人のペースを大切に支援することに努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食べやすい形態に配慮していません。また、下ごしらえや、食事の後片付け等、利用者様と一緒にできる支援も取り入れてます。	食事の準備作業で、おしぼり巻きや皮むきなど、出来ることを利用者も行っている。下膳を行う人もある。また、毎年、干し柿づくりを皆で楽しんでいる。おやつや誕生会等のイベント食は、利用者に食べたいものを聞き、取り入れるようにしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられる量や形態を工夫したり、水分補給も確保出来るよう、好みの飲み物を個別で提供するようにしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の先生のお話を参考にし、歯ブラシの当て方や歯間ブラシの使い方等使い分けながら口腔状態に合わせた対応をしています。また、食べることが維持できるよう、適時治療を促しています。	職員が朝夕の口腔ケアを行っている。毎食後、下膳後に、そのまま洗面所で口腔ケアを行なう人もある。2週間に1回歯科往診があり、希望する利用者が受診している。職員は、義歯のクリーニングや発声についての指導を受け、ケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導、介助をしています。一人一人に合ったパットの使用をしており、快適に過ごしていただけるよう配慮しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっていますが利用者様の気分や体調に合わせて別日に変更したりしています。着替えも選んでいただくようにしています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良眠を目指しているため、日中はなるべく活動を取り入れたりしています。お昼寝の時間や就寝時間は個々のタイミングに任せています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人がどんな病気で、どんな薬を服用しているのか情報の共有をしている。医療的なことは、主治医もしくは訪問看護師に相談しながら調整させていただいている。	利用者の病状を把握した上で薬を仕分けし、食事担当者が中心となって服薬支援を行い、飲み終わるまでを複数の職員で確認している。服薬支援後にも、誤薬や飲み忘れがないか、空袋を確認した上で廃棄している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ることを支援するよう心掛けています。(折り紙・新聞たたみ・食器洗い・洗濯たたみ・掃除機がけ等)家庭菜園も行っています。その人らしい生活のご支援を心がけています。	玄関前の花壇やプランターで、花や野菜作りをしている。野菜の収穫は食材にも利用し、1年を通じて利用者の楽しみ事にもなっている。モップ掛けやおしぼり巻きなども、利用者のやりがいに繋がるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺へ散歩や、ドライブなど外出しています。ご家族さまにも協力していただき、外泊や外食、自宅へ行かれる利用者様もおられます。なるべく買い物にも同行させていただいています。	日常的に、事業所周りの交通量が少ない道を30分程かけて散歩している。近くにある同一法人事業所まで、散歩で行き来することもあり、利用者同士の交流の機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本置いてません。必要なものがある場合や欲しいものがある場合は、ご家族にお願いをするか代理で購入したり、小口を利用し一緒に買い物へ行くとときもあります。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば掛けていただくこともあります。はがきを代筆させていただくこともあります。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア等の共有スペースには余計なものを置かないようにスッキリとした空間作りを心掛けています。ホームの花壇やプランターには季節の花や野菜を育て四季を感じていただけるようにしている。	玄関や共用空間の壁、テレビ台などには、適宜、季節に合った飾り物や作品等を取り替えているが、全体にすっきりと整理整頓、管理されている。利用者が安全に、落ち着いて過ごせる場所となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	明るく安心してくつろげる共有スペース作りに努めています。居室で過ごされる方も見えますが過ごしやすく、プライベートが保てるように配慮しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライベートが保てるように配慮していますが、基本的には利用者様やご家族にお任せしています。使い慣れたものを持ち込みしていただいたり、好みの飾り付けをしていただいています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は続けていただく。出来たことは、共に喜び合い共感するよう心掛けています。フロアは全体を見渡せる作りになっていますので、それぞれの動きを見守っています		